

1 モエン標準施工法

1-13 胴縁下地組み

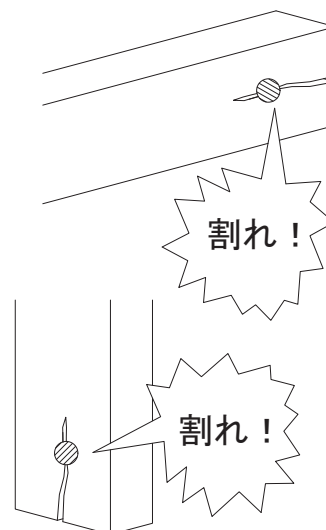
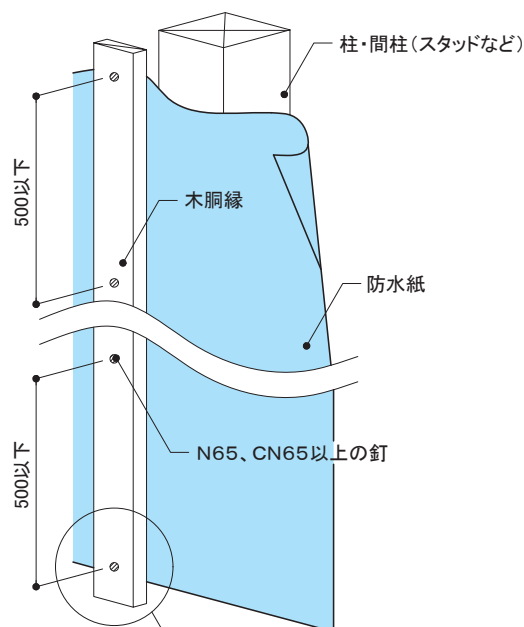
3) 胴縁の下地組みの施工(留付方法・間隔)

- 木胴縁は、必ず防水紙を張った後に留め付け、モエンの裏面が防水紙と密着しないようにします。
- 木胴縁は、500mm以下の間隔で柱や間柱などの躯体に留め付けます。

胴縁間隔	500mm以下(躯体に留め付ける)	
留付 釘・ビス	木造下地	N65、CN65以上の釘 φ3.8mm×50mm以上の木ビス
	鉄骨下地	φ5mm×60mm以上のステンレステクスビス (木胴縁の厚みが33mm以上の場合)
留付間隔	木造下地	500mm以下
	鉄骨下地	610mm以下(※)

※ 1時間準耐火構造は606mm以下。

- 胴縁端部への留め付けの際は、割れ防止のため、先孔をあけてから留め付けます。
- 胴縁下地組みの仕上げ面は、不陸が3mm以下となるように厚み調整をして取り付けます。



注意



- 縦胴縁、横胴縁の端部の留め付けの際は、上図のように割れが生じやすいので、端部距離が50mm以下(目安)の場合は、先孔をあけてから留め付けてください。割れたままでは、胴縁が反ったり、モエンの固定力不足からモエン自体の変形につながるおそれがあります。
- エア釘打ち機を使用して留め付ける場合には、空気を事前に調整して留め付けてください。空気が高すぎると、釘の埋め込み過ぎによる割れが生じる可能性があります。



胴縁は必ず躯体(柱・間柱・スタッド)に留め付けます。
耐力面材のみへの釘打ちやビス留めは行わないでください。のちのモエンの変形や脱落の危険性があります。